

○議長(古畑浩一君)

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。〔13番 伊藤文博君登壇〕

○13番(伊藤文博君)

新政会、伊藤文博です。

本日は、1、行政サービス向上、地域活性化に向けた庁内連携強化、企画力強化、職員の能力向上及び外部との連携強化について質問いたします。

- (1) 高齢者福祉に関する健康増進施策などとの庁内連携はどのように進めていますか。
- (2) 児童福祉に関する教育委員会と福祉事務所の連携についてはいかがでしょうか。
- (3) 教育関係施設管理に関する教育委員会と産業部の連携については十分に図られていますか。
施設管理とは、新築、改築、リニューアルを含む管理ということであります。
- (4) ジオパーク活用による交流人口拡大策に関する、商工会議所。商工会、観光協会との連携についてはどう図られていますか。
- (5) ジオパークに関する、国。県との連携については十分に図られていますか。
- (6) ジオパークに関する国内外各地域との連携についてはいかがでしょうか。
- (7) 職員の企画力を高め、陳情型行政から脱却して、市職員が自ら仕事を作っていく体質に改善することについてどう考えていますか。
- (8) 行財政改革の根本的課題である職員の意識改革に徹底的に取り組み、行財政改革を推進することについての具体的施策はいかがでしょうか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、高齢者の健康診査や介護予防アンケート調査の結果を健康増進課と福祉事務所で共有し、健康管理や介護予防に役立てております。

2点目につきましては、家庭状況等の情報を教育委員会と福祉事務所で共有し、要支援家庭に関する支援の連携を図っております。

3点目につきましては、教育関係施設の営繕工事や改築工事については、教育委員会の技術職員で実施するほか、産業部の技術協力により連携し、事業を進めております。

なお、大規模な改築、改修事業については庁内検討委員会を設置し、設計内容についての協議、検討を行っております。

4点目につきましては、糸魚川ジオパーク協議会の構成団体として加わっており、各種事業において連携を図り、実施いたしております。

5点目につきましては、国土交通省、環境省などからジオパーク活動に配慮した取り組みを行っていただいているほか、各省庁が参加するジオパークの委員会を通じ、連携を深めております。

また、県の糸魚川地域振興局からは各種取り組みに参加いただき、密接な連携を図っております。

6点目につきましては、日本ジオパークネットワークにおいて普及啓発を推進するとともに、国内外、各地域との連携、相互交流をはじめ連携強化に取り組んでおります。

7点目につきましては、地方自治体の自己決定、自己責任という地域主権の流れの中で、例えば地域振興やジオパークなどの分野において、みずからが考え、外部と連携した業務の推進など、体質改善が図られてきてると思っております。

8点目につきましては、行財政改革の推進において重要と考えており、市民ニーズを把握し、みずからが率先して行動し、市民に信頼される職員となることを目指し、職員人材育成基本方針に基づき、今後も継続して人材育成を進めてまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

聞き慣れた健康寿命という言葉がありますね。健康でいられる年齢を少しでも高くして、幸せな晩年を送ろうというものだと思いますが、この考え方に基づいて、糸魚川市の実態を分析したようなデータというのがありますでしょうか。

○議長(古畑浩一君)

暫時休憩いたします。

(午後2時41分 休憩)

(午後2時41分 開議)

○議長(古畑浩一君)

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

○健康増進課長(岩崎良之君)

健康寿命につきましては先日報道がございまして、新潟県の場合は男性が69.91歳、女性が73.77歳と出ておりまして、当市の内訳について、どのような形の数字が出ているかということで詳細を知りたいと思って、この間、妙高の課長と県庁へ行つたときお邪魔させていただきましたら、要するにアンケートの個数が少ないんで、ちょっと公にできる数字じゃないということで、お示しをしていただけなかった状況でございます。翌年出したときに、数値が大きく変わる可能性があるということでした。

ただ、うちとしてもやっぱりデータとして欲しいということで、引き続きまたそういうデータをいただきたいということで、要望していきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

必要なデータですよ。糸魚川市独自でやはりその数字をつかむ努力も必要だと思います。

やはり高齢者福祉と健康増進のつながりというのは、やはり介護予防の観点からいっても、どこで介護予防になるのか。例えば一般の健康増進策から、どこの時点から介護予防になるのかというのは、これは役所的に考えれば担当の違いだとかなくなってくると思うんですけど、実際には連続したものですから、やはり把握をしていてもらいたいと思います。

私も埼玉県和光市の例は、これまで何度も一般質問で取り上げてきました。ほかの議員からも取り上げられてきています。そのような経過から、行政では和光市の例を学習し、検討したということはありませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

岩時健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

○健康増進課長(岩崎良之君)

大変申しわけございません。今初めてお聞きしたことで、まだ調べたことはございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

和光市の例は、介護ヘルパーさんが、今までできたことを、またできるようにしたいということで、一緒に体操をしたり、食事をつくって一緒に食べて片づけをしてというようなことの中で、健全な生活リズムを取り戻していくというものです。これはもう何度も、ここで質問をしております。平成18年12月議会以来、私も多分3回は正式に取り上げて話をしておりますが、答弁の反応も悪くありませんでした。しかし勉強しとらんというのは、これはぐあいの悪い話ですよ。

総務部長、やはり職員研修ということでいつも、やはり議会の我々の立場で現地に足を運んで勉強してきたことを、ここで何回も提言しているわけですが、それについて実際に行政が取り上げないというのは、全くこれは問題にならん話だと思いますけど、どうなんですかね、取り組み姿勢として。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長(金子裕彦君)

お答えいたします。

議会のこのような本会議、あるいはそれぞれの委員会におきまして、議員の皆様からご提言をいただいたこと、あるいは今後こちらのほうで取り組みをしていきますよ、あるいは検討していきますよというお答えを申し上げたものについては、後日、庁内で整理をいたしまして、その後の状況の把握等に努めておるところでございます。

ただ結果として、今ご指摘のありましたような案件があったことは、大変申しわけなく思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ことしの総文の市外調査には、能生事務所が同行しました。先ほど答弁の中にもありましたよね。教育委員会も一緒という意向が示されました。そういう意味では意識が、ちょっと変わってきてると思うんですが、しかし、昨年視察してインパクトの強かった大仙市に優先して行くように言いまして、ことしは我々の視察には、教育委員会は行かなくていいよということにしたんですね。

先進事例は情報を取るだけでなく、実際に足を運んで、肌で感じてくることが重要です。もう伝聞で何ぼ聞いていても、それをまたインターネットで情報を取ったとしても、実際のところわからないですね。

これは担当課から、そこへ視察へ行きたいという声が上がってこないから行かせないのか、予算がないから行かせないのか、どっちなのでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

○総務課長(渡辺辰夫君)

委員会の市外視察にうちの担当課長などが同行するということについては、基本的には我々は予算をやりくりしても同行できるように努めておるところでありますし、そういう申し出があれば、それに協力、支援もしていきたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ということになれば、各担当課の取り組みが甘いということですね。市外調査と一緒に行くのはいいですよ、それはまた機会を取り上げてもらえばいいですけど、実際にいろんな情報があったときに、そこに対してしっかり研究していこうという、貪欲な仕事に対する姿勢というのはやっぱり必要だと思いますよ。必要な知識を習得して、体験を経て、よい事業が計画、実行できるのに、いたずらに時を過ごしてしまうようなことがあったら、出張費どころじゃない。その後、実際にそこに取り組むまでの間、いたずらに無駄な事業を行っていることにもなりかねないということなんですよ。

今後どうしますか。もう少し庁内で意識を徹底して、先進事例の取得、それからいろんな計画の改善については、積極的に取り組んでいくというような姿勢は示せますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

○総務課長(渡辺辰夫君)

これまで積極的について行くようにという指導なり、お願いはしてありませんが、さりとて1つの委員会に10人もついて行かれても、またなかなか大変な部分もありますので、各課選抜で、特に研修することによって得るものが多いと思われる課を中心に、何人か複数の職員が同行できるようにはしていきたいというふうに考えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

市外調査に同行することだけを言ってるんじゃないんですよ。その後の、いろいろこちらから情報があったときの対応のことも同じだと思うんですが、それはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

○総務課長(渡辺辰夫君)

一般質問等で先進地の事例をお聞かせをいただくことがあります。たまたまついて行けなかった場合もあるわけですが、そういった場合に後ほど、それこそインターネット等で、そこで行われている概要を把握する中で、我々職員だけで視察に行くというようなことも考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今回、教育委員会は大仙市へ行ってくれたそうですから、またその成果が何らかの形であられることを期待しています。

はびねすですね、介護予防としての利用状況というのは、どうなっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

○健康増進課長(岩崎良之君)

お答えします。

はびねすにつきましては、特に介護予防に限定という形ではなく一般の方を対象という形で、いろいろ運動で利用していただいておりますし、また、入浴施設も活用していただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

そこが連携と言ってるんじゃないですか。その答えじゃ当たり前ですよ。はびねすの今の施設に、水中運動用プールが計画されていたときには、そのプールに介護予防や機能回復として使えるように、車椅子の人がどう利用するかということまで議論されていたわけですよ。

はびねすでも高齢者用のトレーニング器具を、ちゃんとセントされてるんですよ。これは我々が視察に行っていく中で、豊岡市の施設を見たりして、そこにもやはり高齢者用のマシンが幾つかありました。そういう介護予防にも使われているということも、委員会の中でもずっと話をしてきたことです。福祉事務所との連携の中で、活用されていかなければならないですね。連携を図っていかなきゃいけないんじゃないでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

○健康増進課長(岩崎良之君)

介護予防の前段に、やはり大きく健康づくりがまずあると思いますので、そういうベースとしての健康づくりの拠点施設の位置づけになると思います。

介護予防になりますと、やはりどうしても各地域、もっと細かい範囲で地区公民館単位で、やっぱりいろいろ運動教室とかをやっていく必要があると思いますので、そういう使い分けをしていか

なきやいけないかなと思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

はぴねす自体が健康づくりの基地的な役割を果たしている、各地域では地域でやっている、これは介護予防でも、みんな一緒じゃないですか。だからさっきも言ったように、健康づくりと介護予防の境目というのはないわけですよ、実際には。だから、そこで考え方として連携したものが出てくることによって、より幅広い活用の仕方が出てくるということだと思いますので、ぜひ考え方にそこをプラスして、今、頭の中から抜けてるわけですから、そこをひとつ念頭に置いて検討してもらいたいですが、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

今、やはりはぴねすというのは、少しレベルの高いところにあるものですから、なかなかそこへは直接行かないところがあるわけがございますので、なるべく今、運動に関心を持っていただけるような方向でずっときとつたわけございまして、できれば究極的には、やはりはぴねすのほうへ行くことが、より運動機能が高まっていくんだらうと思うわけございまして、まずは地区公民館を中心にして運動にいそしむように、また、運動に関心を持つように進めさせていただいた段階でございまして、伊藤議員ご指摘のように、最終的には、はぴねすへ行って専門的に、また指導なり、またははぴねすのほうからも、そういった運動に対しての指導はいただいて、各地域の中で生かさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

介護予防には、器具を使う運動が適している人というのは、ほんの限られた人かもしれませんが、そのつながった考え方をしていることによって、また活用できていくということもあると思います。また水中運動プールが必要だということに対しても、またいろんな考え方がそこから生まれてくるんじゃないかと思っておりますので、よろしく申し上げます。

児童福祉のほうへいきます。

子どもに関することは、全てこども課ということになってきましたよね、こども課をつくったときに。こども課がそういうことで設置されたわけですが、児童福祉に関しては、こども課の所管なんですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

○教育委員会こども課長(吉田一郎君)

お答えします。

そのとおりでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

そうすると、障害のある児童生徒の福祉というのは、どうなっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

○教育委員会こども課長(吉田一郎君)

お答えします。

障害のある児童生徒の教育的な部分については、こども課が中心になってっておりますし、生活のサービスにつきましては、福祉事務所のほうで中心になってあっておるということだと思いますし、窓日がこども課でありますので、こども課がコーディネートしながら取り組んでまいっているということでございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

さきに、じゃあちょっと規則的なところを確認しますが、行政組織規則、教育委員会組織規則では、児童福祉は、こども課子育て支援係の所管となっていますね。業務上は今の流れはわかります。障害児福祉は福祉事務所というのは、これは適切な流れなんだろうけど、規則と適合してるんでしょうね。でなきゃ規則を変えなきゃいけないっていう話ですけど、大丈夫でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

○教育委員会こども課長(吉田一郎君)

お答えします。

実際には、いろんなことをやっているわけですが、一部、規則をうまく活用しながらという面もありますので、今後、その辺の整理はしていく必要もあろうかというふうに思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

うまく答えたね。規則をよく見て、実際と合った形で、しっかりと確認をしてもらいたいと思います。私が見る限りは、児童福祉は子育て支援係ということになっておりますね。福祉事務所のほうで、そういうふうにかかれております。ただ、障害児福祉は福祉事務所であるということですから、その整合性をただし書きなんかで、しっかりと整えてもらいたいと思います。

特別支援が必要な子どもたちについては、学校教育はこども課、障害児福祉は福祉事務所ということになってますね。この連携というのは、果たして十分に図られているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長(加藤美也子君)

お答えいたします。

障害児をお持ちのご家庭にとりましては、その子を支援するには、さまざまな分野からの支援が必要になります。そういう意味では、こども課、福祉事務所と連携をとらせていただきながら、生活支援をさせていただいております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

そうなりますと、ひすいの里分校でのいろいろな情報は、こども課と福祉事務所が共有して、障害児福祉に関しても同じように共有して、検討、対策をともに行っていかなければならないということになりますね。

例えば福祉事務所の職員が、ひすいの里分校と連携を図って、教育委員会を通じてということになるでしょうけど、一緒に、例えば学校に運んで実態を把握する、教職員と意見交換をする、どういふ支援が必要なのかと、子どもの状態を確認するというようなことは行われていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長(加藤美也子君)

お答えいたします。

行われております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

この件については9月議会で、五十嵐健一郎議員が詳しく取り上げていますので重複する質問はしません。

1つの例として聞きますが、こども課、福祉事務所、保護者との連携の中で、重度障害のある児童生徒に対応できるヘルパーの必要性などということも、把握することができていると思いますが、対応できるヘルパーさんというのはおられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長(加藤美也子君)

お答えいたします。

ヘルパーにつきましては、介護をするという意味でヘルパーはいらっしゃいます。また、ひすいの里分校に通ってられる重度のお子さまにつきましては、保護者の方がいらっしゃいますので、原則は保護者の方が支援をするということになっております。

また、長期の休みの場合には、お家の中で支援というよりも、ほかの施設で1日お預かりするという支援を行っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

大きい枠でいくと、多分そういうことなんでしょうけど、実際には重度障害児をちょっと見てほしいというようなことの中で、ヘルパーさんに対応してもらいたいようなケースはあると思うんですね。実際、重度障害児に対応できるヘルパーというのは、いないんじゃないかと思うんですけど、その実態と、それから今後、やっぱりそういう実態に応じて、養成していく計画などというの必要なんじゃないかと思います。

こういうこともやはり学校と連携する、保護者との連携の中で、実態把握の中で不足している部分を積極的に、計画的に何とかしていこうという姿勢が必要だということなんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長(加藤美也子君)

お答えいたします。

障害をお持ちの方を地域で支えるという意味では、今後必要であるというふうには思っております。しかしながら、重度のお子さんに関しましては、医療のかかわりもあります。そうしますと、介護職だけの対応は難しい場合もございますので、勉強させていただきたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

確かに難しいと思うんですよ。しかし、そこに対応してあげないと、やはり保護者の負担を軽減することはなかなかできないと思っております。

私も実際に、知り合いの中にそういう方もおられて、話を聞いてみますと必要性をひしひしと感じますね。やはりちょっとしたことの助けが非常に重要であるということですので、ぜひ取り組んでいってください。勉強するということですから、ぜひ実現する方向でお願いしたいと思っております。

次、教育関係施設管理のほうですが、昨年来、教育関係施設の改築やリニューアルで問題が多く発生しています。もともと教育委員会が、技術的な管理というのは難しいですよ。そこで建築技術者が何名か、今2人でしょうかね、配置されているようになってます。しかし、市内の公共建築物の教育施設が占める割合は非常に高いですね、教育施設が建築物の相当な部分を占めている。国の耐震化推進方針で、多くの建築設計、施工が発注されています。

山ノ井の問題では、設計段階で審査をしっかりと行って、発注後の工事金額が、いたずらに膨らむことのないよう委員会でも集約されております。また、そのような方針を行政側からも確認しているところであります。

必要な場合に、部・課を超えて、設計委託の審査体制を組めるというのは、さっき検討委員会を設置するということになってますが、実際、大規模なものということになってますけど、もっとも何かその連携が必要なんじゃないかなというような、実際、今までの経過を見て感じるわけですね。どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長(伊奈 晃君)

お答えいたします。

基本的に大規模といいますのは、基準とか何平米とか、そういうのはございませんが、山ノ井、それから今の小学校、中学校を3校やってます。そのぐらいが大規模ということになります。そのぐらいになりますと、庁内の検討委員会を立ち上げてまして関係各課が集まって、当然、建築技師も入りまして、設計の検討をしていくと。

それ以外のものにつきましては担当課、それから都市整備課の技術士と連携して、それぞれ設計の協議を行っているというのが実態でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今、その仕組みで十分であれば、問題は起きないということになるんですね。やっぱりいろいろあるわけですから、そここのところの仕組みのちょっと足りないところは、やはり探ってみて、検討することが必要でないかと思えます。

糸魚川小学校の解体工事においても、増額の補正予算、専決が問題になりました。山ノ井の問題が学習されて、水平展開されていけば、そうはならなかった。逆に水平展開されているとは、ちょっと思いにくいというところがあります。

不適合という事例が発生したときの庁内水平展開、再発防止はどのような仕組みで図られているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長(金子裕彦君)

いろいろと今ほどご指摘のありましたような山ノ井の問題等、過去にも議会からご指摘を受けるような大きな案件があったわけですがけれども、それらの状況を受けまして、私どもは庁内で問題点のところを関係課のほうで、それぞれ問題となったところを洗い出しながら、どこら辺に当初の原因があったのかというところを分析する中で、その問題を情報共有して、その後の同じような取り組みの中で、過ちを繰り返さないという情報共有と、対策の共有に努めておるところでございます。

そうは言いながらも、全く同じような事例はないわけですので、同じような状況のものを類推、

あるいは想定しながら、対応策をとっていくということで努めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

その分析された結果ですね、例えば自分の課や係で起きるとしたらどんなものがあるか。要するに、危険予知みたいなものですよ。そういうものをやらないと、多分連動していかないんですよ、その情報が自分の立場に連動していかない。そのことをやってるときは、そのことなんですけど、自分の机の上の仕事に向かったときは、もうそのことは切り離されているということになりますから、やはりその仕組みは、もう1つ踏み込んだ対応が必要だと思えますね。

それから設計委託については、今、入札制限価格がありません。これは前にも言ってきましたが、設計というのは労力ですよ、どれだけ時間をかけて設計するか。例えばリニューアルであれば、今までの建築物の図面をどこまで精査して見て取り組むか、そういうことになっていくわけなんですけど、これは安い価格で取ったら手間かけない、そこによってミスも起きると思うんですけど、これはやはり入札システムがおかしいと僕は思います。

教育委員会から、あんな安い金で契約させたからこんなことになったんで、契約制度をちょっと考えませんかというように働きかけだって本当は必要だと思います。でも、こっちは企画財政の部分だということになって口を出さない。それでは仕事はうまくいかないと思うんですね。やはりそれぞれの立場でいろんなことを考えて、意見交換をしていくということが必要だと思いますが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長(斉藤隆一君)

今、伊藤議員からご指摘の特に設計委託業務、これは今おっしゃられたとおりなんですけれども、庁内におきましても、特に昨年からの問題を受けまして、庁内の副市長が委員長でありますけれども、入札選定委員会の中においてこの問題を取り上げております。25年度から、まだ最低制限価格の設定というわけにはいきませんが、庁内でこのことは十分、今協議をしておりますので、また、県内の状況も設定しているところもあります。

設定していないほうが多いわけなんですけれども、他市の状況はともあれ、やはり製品の完成度の高さというのは、安ければいいとか、そういう問題ではなくて、安いにこしたことはないかもし

れませんけれども、安かろう、悪かろうでは困るという観点から、庁内の、これは建設関係の全ての課長が入っておりますけれども、それらの中でこれまで検討も重ねておりますけど、まだ方向づけには至ってないという状況です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

いや、真剣に考えんとだめですよ。設計なんて本当に手間なんですから。そうすると、いろいろな問題が出てきて、これに対して検討してくださいというので応えられなくなるでしょう、相手だって企業なんだから。その実態がわかっていながら、要するに設定してないところが多いから、してませんというのは、いつまでたっても先進地にはなれないですよ、いろんなもので。やはり独自の考え方をしていかなきゃいけないでしょう。今、糸魚川市で、これだけ問題が起きているということはどう捉えているんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長(齊藤隆一君)

今回のやはり大きい問題を十分認識しているつもりであります。

ただし、じゃあ今回の金額が安かったかどうかという部分につきましても、なかなか簡単には言えないことだろうというふうに思っています。建物の設計だけではありませんけれども、委託業務全般の中で、やはりそういったことが言える。特に設計委託のことは、一番気になるところであります。前向きに、庁内で進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ここで結論を出せても無理ですから、しっかり検討してください。実態をよく認識してあってもらいたいと思います。

ジオパーク、商工会議所等との連携ですが、糸魚川市として観光協会にこれからですよ、今、新

幹線開通に向けて、ジオパーク活用に向けて何を期待していますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

観光協会との関係でありますけど、観光協会は合併して1年経過しました。現状は各支部の活動が中心になって、合体された形になっております。

今後、新幹線の開業とか、それからジオパークの世界認定、こういう経過を受けて、そこにかかわる人たち、会員総意の交流。その中からやはり業として、たくさんの人をここに呼んでいただけるような、先端に立っていただける組織に期待しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ヒスイ王国館の観光協会事務所ということになりました。サテライトオフィスが別のところであって、1階に来て、2階に移ったということで、今度は新幹線開通後の新幹線駅舎1階部分に、さっきの情報発信基地になるというような話もありましたね。これは場所がふえただけでは、全く機能しないわけでして、ヒスイ王国館と駅舎1階の連携した機能発揮と活発な活動が求められる。たしか観光協会さんからも、市と一体となった取り組みを期待する要望が出されていたと思います。

前にも言ったんですが、観光コンベンションセンター的な役割も果たしていかなければだめだと。観光協会の職員と、それから市の職員が同じところにおいて、常に一緒に行動する中で、お互いの役割分担の中で発展的な動きをしていく。どんな組織をつくったつてマンネリ化するんで、それはやはり刺激を与え続けていかなきゃいけないんですが、そういうことは、やっぱりあっていかなきゃいけないんじゃないですかね、これから。その新幹線駅舎、1階が今度は活用できるのにあわせて、別々の場所において、時々打ち合わせをして連携をとるというのは、もう効果が全く違うと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

観光協会からも先般、要望書が出されております。議員がお話のとおりであります。新しい1階の活用ですけど、先ほど関係課の課長のほうから施設概略についてはお話があったと思います。

既存の観光協会の案内所が北側にあります。そこはやっぱり従来からの商業連がずっとあります。今で言えば糸魚川のしっかり顔になっておりますので、その案内所の機能については、しっかり保たなければいけないというふうに考えております。

なお、南側のこれからできるものについては、そこと少しダブっていくような形にもなりますけど、ジオパークを軸にした観光案内、それを主体にしていかなきゃいけないんじゃないかなど。要望書に出された部分を含めて、どこまで調整が保たれるかということが、大きな課題であると思いますので、官と民がしっかり手を合わせて公開、ないしは誘客宣伝ができるような施設なり、中身にしていけばいいというふうに考えております。

特に観光協会については、支部機能というよりも、本部機能をしっかり拡充させるべきではないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

補足させていただいて、お答えさせていただきます。

今のまま合併したという形になっておるわけでございまして、そして今あるのは糸魚川地域のインフォメーション機能になったわけでございしますので、その拡充だけではないと思ってるわけでございまして、本当に目的というものをもう1回見ながら観光協会、また、そしてジオパークのインフォメーション、そういったところをどうするのかというのを、しっかりもう1回連携をとりながら、新たな体制でやらないとだめなような気がしますので、そういったところをもう1回再確認という作業が必要になるかと思うわけでございまして、そういったことを行いながら、新しい体制をつくっていかなくてはならないと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

これは新幹線1階部分をどうするかという問題じゃないんですね。もっと観光全体の、ジオパーク活用全体の枠組みをどのように整えて、あそこをどう利用するかというだけの話であって、どうも1

階部分の活用ということだけに偏っているんで、全体を見るところが欠けているような気がします。

観光協会の方が計画図を見て驚いたというような話も聞いていて、決して今、連携協議が十分ではないと思います。要するに十分じゃないというのは、やってるつもりだけど十分とれていないということは、やはり何か枠組みを変えていかなきゃいけないところがある。さっき私が言った職員を1人ないし2人を配置する。だけど、これは誰でもいいわけじゃないですよ。やはり能力のある人を配置してもらわないとだめなんですけど、それは1つの例です。そうでなきゃならんということじゃないですけど、できれば私はそれがいいと思います。しかし、それをどういう仕組みにして、そこで生かしていくのかということが重要ですね。

私がちょっとリーダー的立場で話をしている場でよく言うことなんですが、内部コミュニケーション、打ち合わせは非常に大切だと。しかし、それは相手の立場と人格を尊重した打ち合わせをしていかなきゃいけない。それを徹底的に図ることによって、あらゆるものがうまく回っていくということです。でも、そういう場をつくらないとだめですね、それは会議とかじゃだめなんですよ。

常に顔を合わせて、いろんな話をしていくという、お互いに足を運び合って話をしていくようなことでなければならんというふうに思いますね。

それで市民協働、市民参画と言いますが、これは参画する市民側だけじゃなくて、一緒にやりましょうと働きかける、受け入れる側の行政側の姿勢が、もう本当にこれは適切でなければ、この関係は成り立たないと思うんですよ。どうしてもどこかに壁がある、それが実態だと思います。それを認識してますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長(金子裕彦君)

先ほど来、渡辺議員の一般質問の中にありましたように、市の行政運営の中では市民の皆さんとの協働というのが、非常に今の時代は求められておると思っております。

そういう中では、意識をして進めておるわけでございますけれども、なかなかコミュニケーションをとる中では連携が、ただコミュニケーションの言葉だけで交わしていても、なかなか伝わってない部分もあるんだろうというふうに思っております。

100%それぞれうまく伝われば、お互いにうまく進めていけるんでしょうけれども、そこら辺が、まだまだ問題があるんだろうと思いますので、連携のコミュニケーションのとり方には、いろんな手法があると思っておりますので、その辺の手法については、それぞれ皆さんからも、いろいろなお知恵をいただく中で、また、他の事例等を学ぶ中で、少しずつ進歩するような連携のとり方を模索して、向上していかなければならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

勉強して徐々にというもう段階ではないですね。やっぱり思い切ったことをしないとだめだと思えます。

今、新幹線開通、ジオパーク活用でというのは、もう100年に一度のチャンスと言われてますから、やっぱり多少勉強して改善していくぐらいのことではだめだと思えますよ。しっかりと取り組んでもらいたいと思えます。

ジオパークに関する国・県との連携ですが、今までの枠組みにとらわれない発想で、要求すべきところを研究しながら進めていかなければならないと。ジオパークは、まだ日本では赤ん坊のようなもので、知名度は全くないと言っていいでしょう。したがって、国・県の制度も十分であるとは言えないと思っています。あらゆる機会に、ジオパーク推進を訴えていかなければいけない。

国・県に補助制度を要求するだけではなくて、国・県がもっともっとジオパークを推進していくこと。各地域が連携して活動していくという取り組みも重要だというふうに考えますが、東京駐在が中央にいて、働きかける拠点ができましたね。これはこれで大変苦労してることと思えますが、十分に生かしていくだけの発想と後押しが必要であるというふうに思えます。これは取り組み状況はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

今、いろんな普及啓発に向けて活動してるんですが、やはり横の連携、そしてどういうふうに展開していくかというのは、今、NPOの法人の中で役員体制、また委員会体制をつくっております。

そういう中で、今、連携をしながら、部門をつくりながら、働きかけをしていく方向であります。

それは関係省庁はそういう形で進めますが、そして各地域のやはり連携も大事だということなんですが、その辺がまだ各地域、地域の活動はしてるんですが、連携的なものは、今、日本ジオパーク会議、またそして、あとは担当レベルの委員会での発表報告会というのをやっておる状況でございまして、まだまだ十分な展開だと思ってません。

支援をしていただく企業も大事だということで、そこのほうへの働きかけもまだ十分にはなっておりません。横との連携が今ようやく動き始めておるわけでもございまして、やはりスタッフ不足、

財源不足があるわけでありますので、その辺の活動をできるような形を整えていきたいというのが、大きな課題になっとるんだらうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

各地域との連携がさきに出ましたので、そっちにいきますが、上越3市合同研修会で、公益財団法人日本交通公社研究調査部長、梅川智也さんの講演の中で、ジオパークは全国的に無名であり、全国のジオパークに取り組む地域と一緒にPR活動をしなければならないと言っていました。

市長は日本ジオパークネットワークの代表であります。ネットワークでまとめたPR活動も、なかなかできてないと思うんですけど、これは現状と今後の取り組みは、どのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

ある程度、関心とか、また関係のあるところには出向いとるわけでありますが、なかなか十分にできてないと思っております。

今、非常に関心が高まっているのは各省庁、関連する省庁、9つの省庁が、非常にかなりウエートを置いていただいとるわけでありますが、まだそういった民間企業の中においては、十分にやれてないと思っております。そういったところを、これからどのように出してしていくかというのが大事だと思っておりますが、それはやはり今ご指摘のように各地域の連携も、やはり各地域ごとに温度差があるのも事実であります。その格差というものを感じる中で、それをどのように捉えていくかということも、今大きな事業だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ここでやはりジオパークが全く全国的には無名である、この事実をまずしっかり受けとめなきゃいけないと思いますね。これはもう要するに東京にいて、旅行会社の部長さんをしてる方がそう言ってるわけで、肌で感じていると。

そこでネットワークで、まとまったPR活動をしなればいけない。そこでどうするかということになると、今までであったことから、また1つ考え方を改めて、みんなに呼びかけて、取り組みをしていかなきゃいけないということになるんじゃないかと思うんですよ。この事実をどれだけ強く受けとめるかによって、これからの行動が変わるというふうに思います。まず、ジオパークというものが全国的に知られなければならない。そしてジオパーク糸魚川がありますよというところだと思うんですね、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

確かに普及啓発は進んでないのは事実だと思うんですが、無名だということはないと思っております。要するに、ご存じのようにはとバスの中にも、はっきり世界ジオパークというものは広告宣伝の中にも位置づけられておりますし、また今、JTBの中でも取り入れられたり、全国農業観光の中にも、いろいろ位置づけられておるわけでございまして、その辺をどのように広げていくかということなんだろうと思ってるわけでありまして、本当にそういった課題が大きいことも確かでございますが、そういう今展開の中で徐々に広がりつつあるし、そういったことをやる中において、今、世界ジオパークの国際会議をやったことによって、かなりアピールもできたと思っておるわけでありまして、いろいろなやはり活動なり行動をしなくちゃいけないだろうと。そういう中において、各地域の活動もしっかりあっていかななくちゃいけないだろうということは、自覚をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

やっぱり厳しい現実を認識しなきゃだめだと思います。その日本交通公社の研究調査部長さんが、我々ジオパークを推進している糸魚川市の議員の前で、そこまで言い切るというのは相当なことですよ。だからそれは例えば旅行会社とか、そういう人は知ってるけど、一般の国民には、ほとんど

無名であるという意味だと思います。だから旅行会社で取り組んでいてくれるところがあるから、それは確かにそうでしょう。それは明るい材料ですけど、けどまだ実際に、全く無名なんだということを認識するところから始まらないと、何をやっていいかということが的外れなことになってしまう。ここは物すごい大事なポイントですよ。僕はショックでしたよ、こんなことを言われて。でも、それを受けとめざるを得ない。それを事実と認識して、取り組んでいかなきゃいけないんです。そうだと思いますよ、どうでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

ですから我々も今、そういう普及啓発が一番大事だと思つとるわけであります。

ただ、それをどのように出していくか。我々といたしましても、ただやはり一番大事なのは、ただ単にジオパークと言ってもなかなか、現地へ行ったときの対応も大事なわけでありますので、そういったところをしっかりとやりながら、そしてこれは体験学習型だとか、調査研究、そういった学習的な部分が多いわけであります。そういう中で、修学旅行協会の広がり等も大切なような形で今捉えているわけございまして、そういうことで進めている中において、今、非常に日本ジオパークに参加をしたいという各自治体がふえておるわけであります。そういったことで我々の活動は決して無駄ではないんですが、今言ったように、一般の観光客までは広がってないのが大きな事柄だろうと思うわけでありますが、そういった中で、我々はその受け皿を、観光的な受け皿を、ただ観光だけというのは、非常に理解してもらうには時間がかかるわけございまして、そういったところは、どのように切り口があるのかというところが大きいわけございまして、そういった受け皿をつくりながら進めなくてははいけない。

特に、これはマンパワーが必要でございまして、そう簡単にはいかないだろう。看板だけで、すぐなるわけではございませんし、いろいろやはり射応が必要になってくるわけでありまして、そういったもてなしも、しっかりとやらなくてははいけない部分だろうと捉えているわけであります。その辺をどのように広げていくかというのが、大きなやはりこれからの課題だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

各地域との連携を十分に図って、やっていってもらいたいと思います。

先ほどの国。県のところにちょっと戻りますが、これはこれまでも言っているところですが、ジオパークに関連した国土整備も大変重要な課題ですよ。この間、中央自動車道で大変不幸な事故がありました。これも我々専門家の間では、やはり「コンクリートから人へ」とうたった政策が、現実の姿となって、負の形であらわれてしまったものだというふうに思っております。あらゆる点検費用、維持管理費用が、あらゆるところで削減されている。国道だって走ると草ぼうぼう、もう維持管理の費用がどれだけ削られているか、あれだけでもよくわかります。

安心。安全な国民生活を守るための社会資本整備はもちろん重要ですが、ジオパーク保全活用のための社会資本整備も糸魚川市にとっては非常に重要ですね。これはついでに話す程度のことではなくて、しっかりそこに観点、視点、論点を定めた国・県との連携が重要であるというふうに考えますが、建設関係のほうでは、どういうふうに考えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

このジオサイト、各ジオサイトというのはやっぱり自然の中にある関係で、非常に危険なところもあるわけでありまして。それを全て盤石にするというのは、なかなか難しい部分であろうかと思うわけでありまして、しかし安全というのは一番大事なわけございまして、それをどのように提供していくかというのが、非常に大切になるわけございまして、そこへ行くまでのアクセス、道路環境の整備というのは、これは大事だと思っております。そういう今の道路環境につきましては、特に全て一気に全部できるかというのは難しいわけでありまして、ある程度、利用者がふえておるところについては県と連携をさせていただきながら、また、必要であれば国ともやらなくてはいけないだろうと思っております。そういう中で整備をさせていただいております。

特に、県の振興局につきましては、県道整備についてお力をいただいております。我々はやはり、ただ可能性だけでは話できないと思うわけございまして、多少実績も踏まえながら要望させていただいて、連携をとらせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

その点についてはあらゆるものを、ジオパークに関連するところは、やっぱりジオパークに関連づけて事業化していくという姿勢を、職員共通で持つていてもらいたいなと思います。

次、職員の企画力のほうにいけますが、現在の糸魚川市は、陳情型行政と言えます。これは陳情を受けるということでね、陳情するんじゃなくて、地域からの要望を受けて行政が動き出す。

ところが、私は青海出身ですから、合併前の青海町は違いました。各地域から要望を受けて仕事をするというよりも、町の職員が町の隅々まで理解していて、みずからの考えで仕事づくりに取り組んでいました。職員の企画力が発揮されていたと言えます。これが本来の姿であるというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長(金子裕彦君)

行政運営を進めていく中では、市民の皆さんからの要望に基づいて、それをかなえていくというのも1つでございますし、今、伊藤議員がおつしやられるような形で、市の職員が、みずから問題点を、どのように解決をしていったらいいかという視点で、市内の状況を把握しながら、私どもの事業の運営に企画力を発揮して対応していくと、その両方の組み合わせで取り組みをしていくことが必要だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

そのとおりなんですよ。だから要望を受けないと、言われないと動かないという形ではまずいということですね。どっちかという、今、糸魚川市は、やはり陳情型のほうが色濃いんです。それは合併する前の姿と、した後の姿を知っている私はよくわかっている、青海の人はみんなそう思ってますよ。それで現在の糸魚川市は、地域要望がなければ動かない。これは主体的じゃないですよ。もうちょっと言えば、要望があっても動かないということになってしまう。

これは青海にこだわるわけでもないし、公共事業だけ取り上げるわけでもないんですが、例として話しますと、青海時代の産業課の職員は、青海の山間地のことを隅々まで知っていました。予算要望も、みずからの考えを土台として、国、県、地域と連携して箇所を挙げ、積極的に災害に強い国土をつくろうとしてきた。今、問題がなければ現場を歩かないから、よくわかる職員がいなくな

ってしまった。営々として築き上げてきた知的、人的財産が、合併後わずか5年で消えてしまったような感じを受けるんですよ、私は。青海の山のことをよく知ってる人はいないですよ、今。この現実をどう受けとめますでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長(金子裕彦君)

ただいま伊藤議員のほうから、旧青海町のときの議員が感じられておった状況と著しく変わったのではないかとございますが、合併して非常に市の範囲が広がった状況もございます。

したがって、1人、2人の職員で、市内の山間地域の隅々まで状況がわかるというのが、なかなか難しい状況でございます。限られたマンパワーの中で、できるだけ地域に密着した状況を把握しながら取り組んでいきたいということで、地域担当制をとつたりして状況の把握に努めておりますけれども、今おっしゃられるような状況も、青海地域の住民の皆さんの中にはあるのかもしれない。

そういう声も踏まえながら、今後の対応を考え、検討していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今、私が話したような現状は認識してもらいたいですね。本当にちょっと残念に思うところがあります。陳情がさきだということは、やはり陳情を受けないと動かないことになってしまう。やはりみずから企画して動くんだよという意識がさきに立たなければ、それに対して地域の声を参考として聞いていくというようなことでなければならぬというふうに思いますので、よろしくお願いします。

行財政改革のところの意識改革に移ります。

これは再三言ってきていますが、行政改革は職員の意識改革なしには始まりません。意識改革は熱意がなければできない。意識改革していこうという強い意思と熱意、エネルギーです。意識改革が必要だという考え方、それはわかってると思いますよ、皆さん。だけど、それだけでは決して形になることはないでしょう。これはやはりトップの熱意であります、またはトップ集団の熱意であります。熱伝導の熱源は市長であります。市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

やはり我々が合併したときのことを考えますと、そういった地域を幸せに導く我々は行政集団だということが一番大切であるわけでありまして。

そのようなことから、ちょうど合併10年、そしてまた北陸新幹線開業、そういったものを我々は1つの節目みたいな形の中で、まとまっていかなくちゃいけないんだろうと思っております。本当に572名の職員が一九となるのが、一番大事なわけでありまして、なかなか皆様方の目に見える中においては、そうでない見方もされるわけでありまして。

それも我々はわかる部分であるわけですが、本当にご指摘されるようなときが時々あるわけでありまして、そんなことがどうして起きるのかというような状況もあります。そういうことのないようにしていきたいと思っておりますが、昨日でしょうか、また1つの道路の竣工式、祝賀会にお邪魔させていただいたときに地権者の皆様の1人から、非常に頑張っておるから、本当に職員の対応がよかつたというような話を聞かされた部分もあります。ですから、いろいろな職員がおるわけでありまして、本当に我々は同じ方向を向いて進んでいけるような職員をまとめていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

私は基本的には、職員の皆さんは優秀だと思いますよ、そして一生懸命仕事をしている。優秀で一生懸命やっていて、なおかつまだまだというふうになれば、なぜかという、これは意識の問題だと思うんですよ。どこかでやはり公務員という世界の中で、自分がいる状況というのがよくわかっていないことになって、厳しさが足りなくなっていくということなんではないかなというふうに思います。そういう意味で、意識改革が必要なわけですよ。それが一番最初に来なかったら、行政改革は絶対できません。

やはり貪欲な姿勢がなければ、さっきから言ってる連携の話も、全部もう少し踏み込んで連携をとっていく。本当は認識したくない嫌な現実もちゃんと受けとめて、それに対してしっかり向き合っていて、徹底的に考えて対応していくという、その力が求められているのではないかな。それが今言う意識改革のところだと思うんですよ。意識改革をして、そうならなきゃいけないと思っておりますが、市長、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

私も全くそのとおりだと思っております。ややもしますと、やはり公務員という1つのポジションのところに閉じこもってしまう部分があるのではないかと。当然、そういう1つのやはり自分たちが縛られているルールなり規程に縛られておる中においては、やはりそれを守らないかんとというようなよろいを着てしまう部分があるのかもしれませんが。しかし、それを我々はどのように今までの問題という1つの中において、課題になっているという状況であれば、それをどのように変えていくかというような1つの努力もせないかんと部分だろうと思っておりますので、ですから、これからはやはり目的というものに向かつて、どのように進めていけるのかというところを考えないかんだらうと思っております。

そのように、これからも我々は導いていかなくちゃいけないし、指導もしていかなくちゃいけないんだらうと思っております。それがやはり意識改革であり、また、市民に喜んでいただける行政になっていくんだらうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

最後に、問題に真っ正面から向かい合って解決していくことをお願いしまして、終わります。

○議長(古畑浩一君)

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

暫時休憩といたします。